

取扱説明書 (国内販売用)**小形低空気量低圧スプレーガン**
LOW VOLUME LOW PRESSURE
LPH-50

この取扱説明書に記載された警告事項および注意事項は必ず守ってください。
使用時に不注意で塗料が噴出したり、有機溶剤の吸引により重大な身体上の障害を起こすことがあります。

△ 印付きの下記マークは、安全上、特に重要な項目ですので、必ずお守りください。

△ 警告 告内容を怠った場合、人が死亡又は重傷を負う可能性が想定されることを示します。

△ 注意 注意内容を怠った場合、人が傷害を負う可能性、または物的損害の発生する可能性が想定されることを示します。

重要 この記号は、機械の性能や機能を十分に發揮してお使いいただくために守っていただきたい内容を示しています。尚、本取扱説明書で示す安全事項は、必要最低限のものであります。国や自治体の消防、電気、安全関連の法規、規則又、それぞれの企業や事業所で規制、規定として守るべき事項に従ってください。

重要仕様

最高使用圧力	0.68MPa
騒音値	57 dB(A)
吹付条件	推奨使用条件
条件	スプレーガンより前方へ1m
測定位置	地面より高さ1.6m
使用温度範囲	露地気温 5°C~40°C
重要	スプレーガンへは塗料の圧送供給を絶対にしないでください。

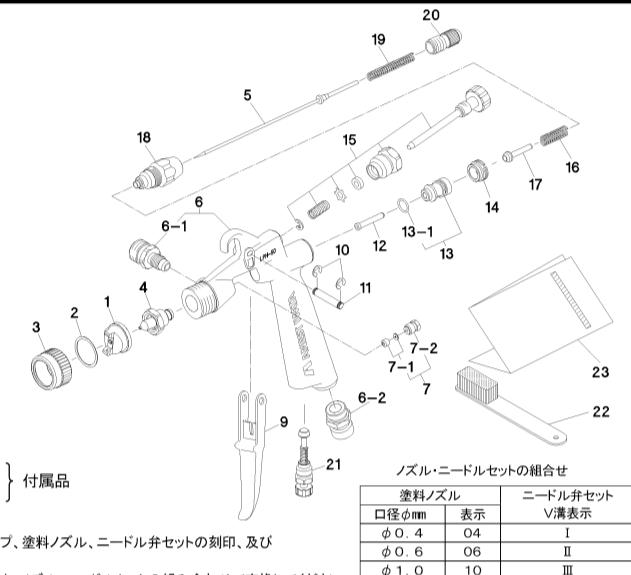
主要仕様

形 式	塗料供給方式	塗料ノズル口径	推奨使用条件			空気使用量	ハタ開き	接続口径	質量
			※1 吹付空気圧力	キャップ内圧	※2 塗料噴出量				
LPH-50-042G	重力式	0.4	0.09	0.07	8	40	空気 G1/4	200	g
		0.6			25		60		
		1.0			55		100		

※1 吹付空気圧力は引金を引き、空気を流した時のスプレーガンの入口部の圧力です。

■ 部品名称

No.	品名	数量
1	空気キャップ	1
2	ハッキン	1
3	カバー	1
4	塗料ノズル	1
5	ニードル弁セット	1
6	本体セット	1
6-1	塗料ニップル	1
6-2	空気ニップル	1
7	ニードル弁ハッキンセット	1
7-1	ニードル弁ハッキンセット(1)	1
7-2	ニードル弁ハッキン押し	1
9	引金	1
10	E形止め輪	2
11	引金止め軸	1
12	空気弁棒	1
13	空気弁シートセット	1
13-1	Oリング	1
14	空気弁シート押し	1
15	バタン調節装置	1
16	空気弁装置	1
17	空気弁	1
18	塗装ガイドセット	1
19	ニードル弁ばね	1
20	塗料調節ツマミ	1
21	空気量調節装置	1
22	掃除用ブラシ	1
23	取扱説明書(本書)	1
◆	印部の部品は消耗品です。	



◆ 部品御注文の際は、スプレーガン形式、空気キャップ、塗料ノズル、ニードル弁セットの刻印、及び上記No.品名を御指定ください。

◎ 塗料ノズル又は、ニードル弁セットを交換する場合は、ノズル・ニードルセットの組み合わせで交換してください。

◎ 閉封時、破損や欠品がないことを確認してください。

◎ 欠品、輸送上の損傷がある場合は危険防止のため使用せず、お買い求めになった販売店又は当社支店・営業所・サービス会社までご連絡ください。

- 1 -

■ 調節方法

作業 1 使用空気圧力は塗料の粘度、性質により異なりますが、概略0.05~0.09MPaの範囲に設定します。

作業 2 塗料粘度は、塗料の性質、作業条件により異なりますが、粘度カッブ(NK-2)で12~20秒程度が適当です。

作業 3 吹付距離は50~150mmの範囲でできるだけ近づけて塗装してください。
低空気圧力のため遠すぎると高い塗着効率が得られません。

■ 保守・点検**警告**

・安全にご使用頂くための警告事項の機器誤用3項目に従い、圧力を完全に逃がしてから作業してください。

・十分理解され、熟達された方が行ってください。

保守時の作業手順

重 要	
1. 残った塗料を他の容器に移した後、塗料通路及び空気キャップの洗浄を行います。塗料通路は少量のシンナーを吹き付けて行います。	1. 洗浄不良はバタン形状や粒子の不具合の原因となります。 特に二液塗料を御使用後は素早く入念に洗浄してください。
2. 各部の洗浄はシンナーに浸したブラシで行い、ウエス等でふき取ります。	2. スプレーガン全体をシンナー等の液中に浸さないでください。長時間浸漬した場合、構成部品の損傷の原因となります。 なお、洗浄時には空気キャップ、塗料ノズルの各噴出穴及びニードル弁セットは絶対にキズを付けないでください。
3. 分解する前に塗料通路内部を十分洗浄します。	3. 塗料ノズルを外す時は、シート部保護のため引金を引き、ニードル弁セットを引いた状態で行ってください。
4. ニードル弁パッキンを調節する時は、ニードル弁セットを挿入したままで一旦、手で締め込みます。手で締めた所からスパナで再度締め込みます。 スパナで締める目安は、手で締めて止まった所から1/6回転程度です。	4. ニードル弁パッキン押しは締め過ぎるとニードル弁セットの動きが悪くなり塗料の先端漏れの原因となります。 固度締め過ぎないように、引金を引きながら、ニードル弁セットの動きを確認しつつ、調節してください。万が一、締め過ぎてしまった時は、ニードル弁パッキン押しを完全に緩めてから、もう一度締め直してください。
5. ニードル弁セットの取外し時、塗装ガイドセットを本体より取外す必要はありません。 塗装調節ツマミを外し、ニードル弁ばねを取り出し本体より引抜いてください。	5. ニードル弁セットの先端は鋭利な針状です、取扱には充分注意してください。 尚、塗装ガイドセットは極力分解しないでください。
6. 空気弁の組立は、空気弁、空気弁ばね、塗装ガイドセットをあらかじめ組合せた後ニードル弁セットを挿入し、その状態で本体セットに組込み塗装ガイドドットをねじ込みます。	6. ニードル弁セットを挿入しない状態で各部品を本体に組込むと空気弁の倒れにより塗装ガイドセット内のリップパッキンを損傷する場合があります。
7. バタン調節装置及び空気量調節装置の組立はおののの調節装置を全開にしてから本体セットにねじ込みます。	7. 全開でないと、バタン調節装置及び空気量調節装置の先端が本体セット先にぶつかり、損傷の原因となります。

点検箇所	部品交換基準
1. 空気キャップおよび塗料ノズルの各穴の通路	つぶれ、変形がある場合は交換
2. ハッキン、Oリング類	変形、摩耗の場合交換
3. 塗料ノズル、ニードル弁セット間のシート漏れ	塗料ノズル、ニードル弁セットの洗浄を十分行っても、漏れがある場合交換。 塗料ノズル単品、ニードル弁セット単品で交換する場合は割り合わせを実施し漏れないことを確認してください。

バターン	原 因	対 策
息切れ	1) 塗料ノズルと本体のテープシート間に空気が混入。 2) ニードル弁パッキンセットからのエア吸引。 3) 塗料容器取付けナットよりの空気の混入。	1) 塗料ノズルを外しシート部を清掃した上で再度取付けてください。 尚、シート部にキズがある場合は塗料ノズルを交換してください。 2) ニードル弁パッキンセットの締め増しを行ってください。 3) 締付部の締め増しを行ってください。
三日月	1) 角孔 [キャップ先端の角部分(突起部)にあいている孔] に塗料が詰まっている。 2) 塗料ノズルの外周及び空気キャップセッタ中心に固体物が付着している。	1) 角孔の固体物を除去してください。この際、付属の掃除用ブラシを使用し金属類のものは使用しないでください。
片寄り	1) 塗料ノズルと本体のテープシート間に空気が混入。 2) 塗料容器取付けナットよりの空気の混入。	1) キズ・固体物が付着している場合は、その部品を交換してください。 2) 塗料ノズルを外し、シート部を清掃した上で再度取付けてください。
中くびれ	1) 塗料粘度が低すぎる。 2) 塗料噴出量が多すぎる。	1) 塗料原液を追加し粘度を低目に調整してください。 2) 塗料調節ツマミを左に回し噴出量を少なくしてください。又は、バタン調節装置を右に回しバタンを締めください。
中高	1) 塗料粘度が高すぎる。 2) 塗料噴出量が少なすぎる。	1) うすめ液を追加し粘度を低目に調整してください。 2) 塗料調節ツマミを左に回し噴出量を多くしてください。
スピット	1) ノズル・ニードルセットのシート不良。 2) 一段吹き(空気のみ噴出)代の減少。 3) 空気キャップ内部の塗料汚れ。	1) 洗浄又は、ノズル・ニードルセットの交換をしてください。 2) ノズル・ニードルセットの交換をしてください。 3) 空気キャップセッタの洗浄をしてください。

■ 安全にご使用頂くための警告事項**警告****火災と爆発**

1. 吹き付け作業場は、火気厳禁です。
・塗料は引火性があり火災の危険性があります。

2. 次のハロゲン化炭素系溶剤は使用しないでください。
化学反応により、本体(アルミニウム部分)にクラック、溶解が発生します。

・不適合溶剤: 塩化メチル、塩化エチル、二塩化メチレン、二塩化エチレン、四塩化炭素、トリクロロエチレン、1,1,1トリクロロエタン等

(特殊な塗料やシンナーは充分適合性を検討した上でご使用ください。適合性検討のための材質リストを提出する用意があります。)

3. スプレーガンはアース線入りホースを使用する等、確実にアースを接続してください。
アースが不十分だと、静電気のスパーによる火災、爆発の危険性があります。



1. 吹き付け作業は、火気厳禁です。
・塗料は引火性があり火災の危険性があります。
2. 最高使用圧力以上でのご使用は絶対に避けてください。
3. 洗浄、分解、保守作業をする前及び作業中断時には必ず塗料と空気の圧力を逃がしてください。
圧力が残っていますと、誤動作、洗浄液の飛散により人体に危険があります。

機器誤用

1. 絶対に人や動物に向けてスプレーしないでください。
目や皮膚の炎症、人体への危険があります。

2. 常に最高使用圧力以上でのご使用は絶対に避けてください。

3. 洗浄、分解、保守作業をする前及び作業中断時には必ず塗料と空気の圧力を逃がしてください。
圧力が残っていますと、誤動作、洗浄液の飛散により人体に危険があります。